



札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	保健医療福祉施設における看護・理学・作業療法学科合同の実習科目「保健医療総論」に関する学生への質問紙調査
Author(s)	堀口, 雅美; 澤田, 雄二; 根本, 慎; 片寄, 正樹; 石川, 朗; 上村, 浩太; 奥宮, 暁子; 坂上, 真理; 杉山, 厚子; 館, 延忠; 坪田, 貞子; 正岡, 経子; 松原, 三智子; 吉野, 淳一; 吉尾, 雅春
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要,第 10 号: 11-18
Issue Date	2007 年
DOI	10.15114/bshs.10.11
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6342
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n134491921011.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

保健医療福祉施設における看護・理学・作業療法学科合同の実習科目 「保健医療総論Ⅱ」に関する学生への質問紙調査

堀口雅美¹⁾、澤田雄二²⁾、根本 慎³⁾、片寄正樹⁴⁾、石川 朗⁴⁾、上村浩太¹⁾、奥宮暁子¹⁾、坂上真理²⁾、
杉山厚子¹⁾、舘 延忠²⁾、坪田貞子²⁾、正岡経子¹⁾、松原三智子¹⁾、吉野淳一¹⁾、吉尾雅春⁵⁾

- 1) 札幌医科大学保健医療学部看護学科
- 2) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科
- 3) 札幌医科大学保健医療学部一般教育科
- 4) 札幌医科大学保健医療学部理学療法学科
- 5) 医療法人社団和風会千里リハビリテーション病院

本学部で開講している3学科合同科目のうち、保健医療総論Ⅱの学習状況を把握するため学生を対象に質問紙調査を行った。対象は平成17・18・19年度履修学生288名で、調査票の回収数は260部(90.3%)であった。調査内容は教員のオリエンテーション、実習、報告会準備、報告会、保健医療総論Ⅱ全体について尋ねる質問から構成した。教員のオリエンテーション、実習、全体に関する各質問への回答には3学科間の相異はほとんどなく、「良い」「やや良い」と肯定的な回答をした学生の割合が高かった。報告会への参加について尋ねた質問では「良い」「やや良い」「普通」と回答した割合が高かった。以上より保健医療総論Ⅱに対する学生の評価は概ね良好であった。ただし少数ではあるが、実習指導者との連絡や報告会の運営方法について改善を望む意見が出された。今後は実習施設との連携、教員のオリエンテーション、報告会の運営について検討する必要がある。

<キーワード> 保健医療総論Ⅱ、保健医療職種教育機関の学生、早期合同実習

A survey on the effects of an interdisciplinary education program for students of nursing, physical therapy and occupational therapy

Masami HORIGUCHI¹⁾, Yuji SAWADA²⁾, Makoto NEMOTO³⁾, Masaki KATAYOSE⁴⁾, Akira ISHIKAWA⁴⁾,
Kota UEMURA¹⁾, Akiko OKUMIYA¹⁾, Mari SAKAUE²⁾, Atsuko SUGIYAMA¹⁾, Nobutada TACHI²⁾, Sadako TSUBOTA²⁾,
Keiko MASAOKA¹⁾, Michiko MATSUBARA¹⁾, Junichi YOSHINO¹⁾, Masaharu YOSHIO⁵⁾

- 1) Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
- 2) Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
- 3) Department of Liberal Arts and Sciences, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
- 4) Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
- 5) Senri Rehabilitation Hospital

We conducted a questionnaire survey of our students in order to examine their learning context in the course of Health Sciences II. The students had participated in field practicum from 2005 to 2007. We distributed the questionnaire to 288 students at the Departments of Nursing, Physical Therapy and Occupational Therapy, the School of Health Sciences, Sapporo Medical University. 260 students (90.3%) responded to the questionnaire. The questionnaire contained questions on the methods of guidance, the practices within the facilities, the preparation for a report session, holding the report session, and the comprehensive evaluation through the course of Health Sciences II. A high percentage of students gave affirmative answers to the questionnaire, and the distributions of the responses were similar regardless of their majors. Most students were satisfied with the course of Health Sciences II. However, some students expected to improve both of the methods to get in contact with the instructors in the facilities and to organize the report session. In our next phase, we will discuss the collaboration with the facilities for the practicum, well-organized guidance, and the report session.

Key Words : Health Sciences II, Students of health sciences, Early exposure

Bull. Sch. Hlth. Sci. Sapporo Med. Univ. 10:11-18 (2007)

I はじめに

我が国では高齢社会や生活習慣病の増加といった社会状況の変化に伴い、福祉や行政などさまざまな分野の人々と連携しながら保健医療サービスを提供する必要性が高まっている。医療の場においてもチーム医療の重要性が強調され、看護師、理学療法士、作業療法士、医師、薬剤師、栄養士といった複数の医療関係の職種が連携することで、医療サービスの質の向上が期待されている。

そして医療系専門職を養成する教育機関に対しては、職種間の連携を推進できる人材の育成が求められている。連携を学ぶ方法には、学部や学科間を超えて合同で運営する科目の開講や自主的な参加者によるプログラムの実施などがある。たとえば新生を対象とした合同ゼミナール¹⁾や複数学科の学生が学ぶフィールド体験学習^{2) 3)}、自主的な参加者を対象とした地域フィールドワーク⁴⁾、高齢者への学際的チームアプローチ⁵⁾などの報告がある。また、鷹野は「チーム医療論」という講義についての紹介のなかで、入学後の目的を明確化し、以後の学習に好影響を与えるという点から早期体験の必要性⁶⁾を述べており、連携について学ぶためにさまざまな取り組みが実施されている。

本学部は看護、理学療法、作業療法学科の3学科から構成されている。本学部においても保健医療の総合的な教育の実現を目的として平成12年度のカリキュラム改正の際に、3学科の学生が合同で履修する科目として保健医療総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳが新設された。平成17年度にカリキュラムが一部改正されたが、保健医療総論Ⅰ～Ⅳに関しては平成12年度の内容がほぼ踏襲されて今日に至っている。保健医療総論Ⅰ（1年）では高齢者や障害者の疑似体験学習、保健医療総論Ⅱ（2年）では北海道内の保健医療福祉施設における実習、保健医療総論Ⅲ（3年次）では保健医療職の倫理に関わるグループ学習⁷⁾、保健医療総論Ⅳ（4年次）では事例に対するインタビューとグループ学習を行っている。4年間を通して、学生は自身の専門分野のみならず他の専門分野への関心を高め、保健医療福祉に対する洞察を深めていくことがねらいである。

保健医療総論Ⅱは平成13年度から開講しているが、ここ数年は実習施設が変わることなく経過している。そこで今回、保健医療総論Ⅱの学習状況を把握する一助とするため学生に対する質問紙調査を行い、学科別に集計した結果を報告する。

II 保健医療総論Ⅱの目的と目標および学習方法

1. 目的と目標

保健医療総論Ⅱ（必修・1単位）の目的は、1）実習を通じて、保健医療福祉専門職およびその対象者と関わることによって、それらの機能と特性について理解すること、

2）対象者、保健医療福祉専門職者、学生および教員とのさまざまな関わりの中からチームの主体的一員としての役割を学び、今後の学習活動の方向性を明らかにすることの2点である。

学習目標は実習施設における学習と学内での学習に分けて構成している。すなわち、実習施設における学習目標は、1）対象者との相互作用を通して、その人の健康、障害、生活状況および環境について理解する、2）対象者と保健医療福祉専門職者との関わりについて理解することである。学内での学習については、実習のまとめと報告をグループで行うことによって、チームの主体的一員としての役割を学ぶこととしている。学習目標の下位項目については図1に示した。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 対象者との相互作用を通して、その人の健康、障害、生活状況および環境について理解する。<ol style="list-style-type: none">1) 対象者との関係を築く姿勢をもつことができる。2) 対象者の健康状態や障害を知るとともに、対象者がどのように障害を克服しようとしているのかを理解する。3) 対象者との関わりから、現在、あるいは過去から現在までの生活状況を知ることができる。4) 対象者との関わりから、対象者がいる生活環境を知ることができる。2 対象者と保健医療福祉専門職者との関わりについて理解する。<ol style="list-style-type: none">1) 対象者に関わる保健医療福祉専門職の職種とその機能の概要を述べることができる。2) 対象者の安全・安楽を守りながら、関わるができる。3) 保健医療チームにとって必要な情報を速やかに報告できる。3 実習のまとめと報告をグループで行うことによって、チームの主体的一員としての役割を学ぶ。<ol style="list-style-type: none">1) グループ活動を通して、チーム内における自己の役割を担うことができる。2) 報告会での意見交換を通して、実習体験を共有するとともに、今後の課題を明らかにできる。 |
|--|

図1 保健医療総論Ⅱの学習目標

2. 学習方法

開講時期は4月第2週もしくは第3週の5日間で、月曜日から水曜日までは保健医療福祉施設における実習、木曜日は学内で報告会の準備、金曜日は3会場に分かれて報告会を実施している。1グループの学生数は3～4名で3学科の学生が混成するようにグループ編成をし、25カ所の実習施設（宿泊を伴う実習施設7カ所を含む）で実習を行う。施設の種別は病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、重度身体障害者更生援護施設、知的障害児施設、重症心身障害者施設、肢体不自由児施設、肢体不自由児通園施設、知的障害者更生施設である。実習内容は2年次初期の学生が実施可能な内容ということを基本に、具体的には各実習施設の状況に応じて、移動動作、食事、清潔、更衣、排泄の援助、集団体操、レクリエーションリーダー、談話、

送迎、環境整備、カンファレンス見学などを行っている。

学内での学習について、木曜日は学習目標に沿って実習内容を振り返り、報告会用の資料を作成、金曜日は1グループあたり25分程度を目安に発表と質疑応答を行っている。

提出物は3日間の実習状況の記録と報告会の感想の2種類がある。評価は評価表に基づき、学習目標の到達度を評価している。

3. 指導体制

保健医療総論Ⅱの担当教員は役割上、科目担当教員と実習担当教員に分かれており、3学科と一般教育科の各1名(計4名)が科目担当教員、そして3学科から計10名の教員が実習担当教員となっている。科目担当教員は保健医療総論Ⅱ全般の教育計画の立案と運営に関わり、実習担当教員としての役割も担う。実習担当教員は各実習施設との具体的な調整、各学生の実習状況の把握、学内での学習時の指導を行う。実習担当教員は1人が1～2グループの学生を担当している。

実習施設側には実習指導者の役割を担う方を依頼し、その方を中心に具体的な実習内容の調整を行い、実習終了後に学生の実習状況を記入していただいている(図2)。

1 実習指導者
1) 実習施設に関するオリエンテーションを行う。
2) 対象者の決定と紹介をする。
3) 具体的な実習内容の調整をする。
4) 対象者と学生が関わる時の指導をする。
5) 実習記録の内容に関する指導を行う。
6) 実習終了後、学生の実習状況について記入する。
2 実習担当教員
1) 保健医療総論Ⅱに関するオリエンテーションを行う。
2) 具体的な実習内容の調整をする。
3) 実習施設との連絡および調整をする。
4) 対象者の決定に際し、実習指導者と協議する。
5) 実習状況の把握(電話、巡回等による)をする。
6) 報告会の準備と当日の指導をする。
7) 担当したグループの学生についての評価をする。
3 科目担当教員
1) 保健医療総論Ⅱ全般の教育計画を立案する。
2) 実習担当教員と同様の事項〔上記1)～7)〕を行う。
3) 実習担当教員から提出された評価を取りまとめ、最終評価をする。

図2 実習指導者および担当教員の役割

Ⅲ 学生に対する質問紙調査

1. 目的

保健医療総論Ⅱの学習状況を把握し、科目運営の検討をする際の基礎資料とするために、履修した学生に対する質問紙調査を行い、学科別の分析をした。

2. 方法

1) 調査対象

平成17年度履修学生94名、平成18年度履修学生95名、平成19年度履修学生99名の計288名を調査対象とした。内訳は看護学科161名、理学療法学科64名、作業療法学科63名であった。

2) 調査方法

各年度とも保健医療総論Ⅱの最終日(金曜日)に調査票を配付し、回収場所は事務室とした。学科と実習施設の記載より学生氏名は推測可能であることから、調査票は記名自記式とした。調査内容は教員のオリエンテーション、実習、報告会準備、報告会、全体について、学生の評価を尋ねる23項目の質問と通学時間、実習指導者の職種、体験内容等の実習状況を尋ねる質問から構成し、最後に自由記載欄を設けた。今回は学習成果の把握を中心とするため、学生の評価に関する23項目の質問に対する回答と自由記載欄の内容を分析の対象とした。各質問に対し5つの選択肢(4:良い、3:やや良い、2:普通、1:やや悪い、0:悪い)の中から1つを選択するよう回答を求めた。自由記載欄の内容は記載件数と記載内容の分類を行い、主な内容をまとめた。

3) 倫理的配慮

調査に際し、回答は自由意思に基づくこと、回答をしなければ成績にはまったく関与しないことを口頭で伝え、調査票の回収をもって同意を得たものとした。

4) 分析

得られたデータは学科別に単純集計をした。

3. 結果

1) 調査対象の概要

調査票の回収数は260部(90.3%)、有効回答数は260部であった。女性187名(71.9%)、男性73名(28.1%)で、年度別調査対象者の内訳は表1に示した。

2) 教員のオリエンテーションについて

教員による全体オリエンテーション、グループへのオリ

表1 年度別調査対象者の内訳 人数(%)

学科	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計
看護学科	34 (24.5)	52 (37.4)	53 (38.1)	139 (100.0)
理学療法学科	23 (36.5)	18 (28.6)	22 (34.9)	63 (100.0)
作業療法学科	17 (29.3)	20 (34.5)	21 (36.2)	58 (100.0)
合計	74 (28.5)	90 (34.6)	96 (36.9)	260 (100.0)

表2 教員のオリエンテーション

人数 (%)

質問	学科	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	合計
1. 教員による全体オリエンテーションは適切だったか	看護学科	60 (43.2)	32 (23.0)	43 (30.9)	2 (1.4)	1 (0.7)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	30 (47.6)	19 (30.2)	12 (19.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	63 (100.0)
	作業療法学科	15 (25.9)	23 (39.7)	17 (29.3)	2 (3.4)	0 (0.0)	1 (1.7)	58 (100.0)
	合計	105 (40.4)	74 (28.5)	72 (27.7)	5 (1.9)	1 (0.4)	3 (1.2)	260 (100.0)
2. 教員によるグループへのオリエンテーションは適切だったか	看護学科	60 (43.2)	30 (21.6)	43 (30.9)	5 (3.6)	1 (0.7)	0 (0.0)	139 (100.0)
	理学療法学科	34 (54.0)	15 (23.8)	13 (20.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	63 (100.0)
	作業療法学科	23 (39.7)	16 (27.6)	17 (29.3)	1 (1.7)	0 (0.0)	1 (1.7)	58 (100.0)
	合計	117 (45.0)	61 (23.5)	73 (28.1)	6 (2.3)	1 (0.4)	2 (0.8)	260 (100.0)

表3 実習について (1)

人数 (%)

質問	学科	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	合計
1. 各自にとって実習施設配置はどうであったか	看護学科	61 (43.9)	32 (23.0)	28 (20.1)	16 (11.5)	2 (1.4)	0 (0.0)	139 (100.0)
	理学療法学科	28 (44.4)	11 (17.5)	17 (27.0)	5 (7.9)	2 (3.2)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	23 (39.7)	17 (29.3)	16 (27.6)	2 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	112 (43.1)	60 (23.1)	61 (23.5)	23 (8.8)	4 (1.5)	0 (0.0)	260 (100.0)
2. 本科目の実習施設として適切であったか	看護学科	76 (54.7)	29 (20.9)	24 (17.3)	9 (6.5)	1 (0.7)	0 (0.0)	139 (100.0)
	理学療法学科	34 (54.0)	14 (22.2)	12 (19.0)	2 (3.2)	1 (1.6)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	23 (40.4)	18 (31.6)	12 (21.1)	4 (7.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	58 (100.0)
	合計	133 (51.2)	61 (23.6)	48 (18.5)	15 (5.8)	2 (0.8)	1 (0.4)	260 (100.0)
3. 実習期間は適切であったか	看護学科	57 (41.9)	34 (25.0)	40 (29.4)	5 (3.7)	0 (0.0)	3 (2.2)	139 (100.0)
	理学療法学科	36 (57.1)	8 (12.7)	18 (28.6)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	17 (31.5)	17 (31.5)	12 (22.2)	6 (11.1)	2 (3.7)	4 (6.9)	58 (100.0)
	合計	110 (43.5)	59 (23.3)	70 (27.7)	12 (4.7)	2 (0.8)	7 (2.7)	260 (100.0)
4. 実習指導者の指導は適切であったか	看護学科	63 (45.7)	33 (23.9)	25 (18.1)	17 (12.3)	0 (0.0)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	25 (39.7)	19 (30.2)	15 (23.8)	4 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	20 (35.1)	19 (33.3)	10 (17.5)	8 (14.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	58 (100.0)
	合計	108 (41.9)	71 (27.5)	50 (19.4)	29 (11.2)	0 (0.0)	2 (0.8)	260 (100.0)
5. 実習中の課題は適切であったか	看護学科	57 (41.3)	46 (33.3)	31 (22.5)	4 (2.9)	0 (0.0)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	21 (33.9)	18 (29.0)	21 (33.9)	2 (3.2)	0 (0.0)	1 (1.6)	63 (100.0)
	作業療法学科	17 (29.8)	22 (38.6)	16 (28.1)	2 (3.5)	0 (0.0)	1 (1.7)	58 (100.0)
	合計	95 (37.0)	86 (33.5)	68 (26.5)	8 (3.1)	0 (0.0)	3 (1.2)	260 (100.0)

表4 実習について (2)

人数 (%)

質問	学科	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	合計
6. 実習に積極的に臨めたか	看護学科	68 (48.9)	44 (31.7)	25 (18.0)	2 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	139 (100.0)
	理学療法学科	29 (46.0)	21 (33.3)	11 (17.5)	2 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	22 (37.9)	28 (48.3)	7 (12.1)	1 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	119 (45.8)	93 (35.8)	43 (16.5)	5 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	260 (100.0)
7. 実際に体験した生活動作の介助や談話、清掃等はいまできたか	看護学科	25 (18.1)	58 (42.0)	44 (31.9)	11 (8.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	14 (22.2)	31 (49.2)	16 (25.4)	2 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	8 (13.8)	35 (60.3)	13 (22.4)	2 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	47 (18.1)	124 (47.9)	73 (28.2)	15 (5.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	260 (100.0)
8. スタッフとの人間関係は満足だったか	看護学科	55 (39.9)	35 (25.4)	42 (30.4)	5 (3.6)	1 (0.7)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	20 (31.7)	25 (39.7)	14 (22.2)	3 (4.8)	1 (1.6)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	19 (32.8)	21 (36.2)	15 (25.9)	3 (5.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	94 (36.3)	81 (31.3)	71 (27.4)	11 (4.2)	2 (0.8)	1 (0.4)	260 (100.0)
9. 実習中、学生同士で協力し合えたか	看護学科	90 (64.7)	33 (23.7)	14 (10.1)	2 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	139 (100.0)
	理学療法学科	34 (54.0)	23 (36.5)	5 (7.9)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	32 (55.2)	17 (29.3)	6 (10.3)	3 (5.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	156 (60.0)	73 (28.1)	25 (9.6)	6 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	260 (100.0)
10. 3学科混成によるグループ編成の実習をどう思うか	看護学科	100 (71.9)	21 (15.1)	17 (12.2)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	139 (100.0)
	理学療法学科	41 (65.1)	14 (22.2)	7 (11.1)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	34 (58.6)	14 (24.1)	9 (15.5)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	175 (67.3)	49 (18.8)	33 (12.7)	1 (0.4)	2 (0.8)	0 (0.0)	260 (100.0)
11. 実習期間を通して学んだ内容はどうか	看護学科	86 (61.9)	38 (27.3)	12 (8.6)	3 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	139 (100.0)
	理学療法学科	35 (55.6)	24 (38.1)	4 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	63 (100.0)
	作業療法学科	30 (51.7)	19 (32.8)	9 (15.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	151 (58.1)	81 (31.2)	25 (9.6)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	260 (100.0)

表5 報告会準備について

人数 (%)

質問	学科	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	合計
1. 報告会のための準備期間は十分であったか	看護学科	17 (12.2)	38 (27.3)	50 (36.0)	23 (16.5)	10 (7.2)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	14 (22.2)	22 (34.9)	17 (27.0)	7 (11.1)	2 (3.2)	1 (1.6)	63 (100.0)
	作業療法学科	13 (22.4)	11 (19.0)	20 (34.5)	12 (20.7)	2 (3.4)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	44 (16.9)	71 (27.3)	87 (33.5)	42 (16.2)	14 (5.4)	2 (0.8)	260 (100.0)
2. 報告会準備のグループ討議に積極的に参加したか	看護学科	68 (48.9)	45 (32.4)	20 (14.4)	5 (3.6)	0 (0.0)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	27 (42.9)	20 (31.7)	11 (17.5)	4 (6.3)	0 (0.0)	1 (1.6)	63 (100.0)
	作業療法学科	26 (44.8)	20 (34.5)	10 (17.2)	2 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	121 (46.5)	85 (32.7)	41 (15.8)	11 (4.2)	0 (0.0)	2 (0.8)	260 (100.0)
3. 報告会資料作成にあたり学生同士で協力したか	看護学科	83 (59.7)	40 (28.8)	10 (7.2)	5 (3.6)	0 (0.0)	1 (0.7)	139 (100.0)
	理学療法学科	34 (54.0)	19 (30.2)	6 (9.5)	3 (4.8)	0 (0.0)	1 (1.6)	63 (100.0)
	作業療法学科	29 (50.0)	17 (29.3)	12 (20.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	58 (100.0)
	合計	146 (56.2)	76 (29.2)	28 (10.8)	8 (3.1)	0 (0.0)	2 (0.8)	260 (100.0)

表6 報告会と全体について

人数 (%)

質問	学科	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	合計
1. 報告会の全体的な雰囲気はどうであったか	看護学科	52 (37.4)	49 (35.3)	26 (18.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (8.6)	139 (100.0)
	理学療法学科	18 (28.6)	23 (36.5)	16 (25.4)	1 (1.6)	0 (0.0)	5 (7.9)	63 (100.0)
	作業療法学科	19 (32.8)	19 (32.8)	14 (24.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (10.3)	58 (100.0)
	合計	89 (34.2)	91 (35.0)	56 (21.5)	1 (0.4)	0 (0.0)	23 (8.8)	260 (100.0)
2. 報告会に積極的に参加したか	看護学科	31 (22.3)	52 (37.4)	42 (30.2)	1 (0.7)	0 (0.0)	13 (9.4)	139 (100.0)
	理学療法学科	15 (23.8)	16 (25.4)	25 (39.7)	2 (3.2)	0 (0.0)	5 (7.9)	63 (100.0)
	作業療法学科	16 (27.6)	18 (31.0)	15 (25.9)	3 (5.2)	0 (0.0)	6 (10.3)	58 (100.0)
	合計	62 (23.8)	86 (33.1)	82 (31.5)	6 (2.3)	0 (0.0)	24 (9.2)	260 (100.0)
3. 報告会への教員の関わりは適切であったか	看護学科	49 (35.3)	49 (35.3)	28 (20.1)	1 (0.7)	0 (0.0)	12 (8.6)	139 (100.0)
	理学療法学科	14 (22.2)	21 (33.3)	23 (36.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (7.9)	63 (100.0)
	作業療法学科	17 (29.3)	19 (32.8)	16 (27.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (10.3)	58 (100.0)
	合計	80 (30.8)	89 (34.2)	67 (25.8)	1 (0.4)	0 (0.0)	23 (8.8)	260 (100.0)
4. 報告会での1グループの担当時間は適当であったか	看護学科	45 (32.4)	37 (26.6)	38 (27.3)	5 (3.6)	0 (0.0)	14 (10.1)	139 (100.0)
	理学療法学科	15 (23.8)	16 (25.4)	24 (38.1)	2 (3.2)	0 (0.0)	6 (9.5)	63 (100.0)
	作業療法学科	18 (31.0)	13 (22.4)	15 (25.9)	3 (5.2)	0 (0.0)	9 (15.5)	58 (100.0)
	合計	78 (30.0)	66 (25.4)	77 (29.6)	10 (3.8)	0 (0.0)	29 (11.2)	260 (100.0)
5. 報告会を3つのグループに分けたことをどう思うか	看護学科	52 (37.4)	34 (24.5)	34 (24.5)	8 (5.8)	0 (0.0)	11 (7.9)	139 (100.0)
	理学療法学科	22 (34.9)	17 (27.0)	17 (27.0)	2 (3.2)	0 (0.0)	5 (7.9)	63 (100.0)
	作業療法学科	18 (31.0)	18 (31.0)	15 (25.9)	1 (1.7)	0 (0.0)	6 (10.3)	58 (100.0)
	合計	92 (35.4)	69 (26.5)	66 (25.4)	11 (4.2)	0 (0.0)	22 (8.5)	260 (100.0)
6. 報告会で得た内容はどうかであったか	看護学科	73 (52.5)	43 (30.9)	11 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (8.6)	139 (100.0)
	理学療法学科	30 (47.6)	23 (36.5)	5 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (7.9)	63 (100.0)
	作業療法学科	25 (43.1)	23 (39.7)	4 (6.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (10.3)	58 (100.0)
	合計	128 (49.2)	89 (34.2)	20 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (8.8)	260 (100.0)
7. 保健医療総論Ⅱ全体で得た内容はどうかであったか	看護学科	91 (65.5)	31 (22.3)	12 (8.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (3.6)	139 (100.0)
	理学療法学科	41 (65.1)	17 (27.0)	3 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.2)	63 (100.0)
	作業療法学科	30 (51.7)	17 (29.3)	7 (12.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (6.9)	58 (100.0)
	合計	162 (62.3)	65 (25.0)	22 (8.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (4.2)	260 (100.0)

エンターションの適切性を尋ねたところ、3学科のいずれにおいても60%以上の学生が「良い」「やや良い」との回答であった(表2)。

3) 実習について

実習について尋ねた11項目のうち、実習施設としての適切性を尋ねた質問では3学科とも70%以上の学生が「良い」「やや良い」との回答であった。実習指導者の指導や実習中の課題の適切性を尋ねる質問では3学科とも約60%の学生が「良い」「やや良い」という回答であった(表3)。実習に積極的に臨めたか、スタッフとの人間関係は満足だったかという質問に対し3学科とも60%以上の学生が「良い」

「やや良い」との回答であった。実際に体験した生活動作や介助等がうまくできたかという質問について「やや良い」と回答した学生が看護学科58人(42.0%)、理学療法学科31人(49.2%)、作業療法学科35人(60.3%)であった。実習中学生同士で協力し合えたか、3学科混成によるグループ編成の実習をどう思うか、また実習期間を通して学んだ内容はどうかを尋ねた質問では「良い」と回答した学生が3学科とも半数以上であった(表4)。

4) 報告会準備と報告会について

報告会準備のグループ討議に積極的に参加したかを尋ねたところ、3学科とも70%以上の学生が「良い」「やや良

い」との回答であった(表5)。報告会に積極的に参加したかどうか、報告会への教員の関わり方の適切性、1グループの担当時間を尋ねた質問ではいずれも3学科とも「良い」「やや良い」「普通」と回答した学生が22.2%から39.7%の範囲であった(表6)。

5) 全体について

保健医療総論Ⅱ全体で得た内容はどうかを尋ねたところ、「良い」と回答した学生が看護学科91人(65.5%)、理学療法学科41人(65.1%)、作業療法学科30人(51.7%)で、「やや良い」と回答した学生と合わせると3学科いずれも80%以上であった(表6)。

6) 自由記載について

記載人数は73人、記載件数は85件であった。実習内容に関するものももっとも多く27件あった。その内容には、「実習で体験した内容や指導者との関わりから学んだ」、「介助に関する知識や技術がないことからくる不安や戸惑いがある」、「3学科混成によりさまざまな観点から考えが交換できた」などがあった。実習内容以外では、実習の時期、実習施設、報告会、指導、オリエンテーションに関する記載があった。そのうち実習施設については「実習場所を決めさせてほしい」、報告会に関しては「準備期間が短

い」、「資料は他の会場の分もほしい」、「3グループの施設が均等になるよう分けてほしい」といった内容があった。指導については教員と実習施設との連絡が不十分であることが記載されていた(表7)。

Ⅳ 考 察

保健医療総論Ⅱの学習では、対象者との関わり、対象者と保健医療福祉専門職者との関わりを通して人に対する理解を深め、また学生間での学習活動を通してチームの主体的一員としての役割を学ぶことをねらいとしている。

教員のオリエンテーション、実習、報告会準備、報告会、全体に関して尋ねた各質問に対する回答は3学科とも同じような結果であった。実習について尋ねた質問のうち、たとえば実習施設としての適切性や実習指導者の指導や実習中の課題、実習に積極的に臨めたか、3学科混成によるグループ編成による実習、実習期間で得た内容はどうかを尋ねた質問では3学科いずれにおいても、「良い」「やや良い」という肯定的な回答をした学生が多かった。また、報告会について尋ねた質問のうち、報告会に積極的に参加したかを問う質問では「良い」「やや良い」「普通」の3つの選択

表7 自由記載の件数と主な内容

分類(件数)	主な内容
実習内容(27)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験したことも大変勉強になったが、指導者の方とたくさん話す機会があり、多くのことをそこから学べた。 ・名前だけは聞いたことがあっても、実態を把握していない職種に関わることが出来、有意義なものであった。 ・主にコミュニケーション(談話)がメインだった。けれど多くの方と話ができて、本当に良い経験になったと思う。 ・食事介助や入浴介助では、どうしたら安全に行うことができるのか、知識がないため、利用者を危険な目にあわせたらと不安になることがあった。 ・介護についての知識や技術がほとんどない状態で行ったので、何をしたらいいかも分からず戸惑ったり、対象者や施設の職員に申し訳ないと感じた。 ・PT、OT、Nsが混合しての実習はその職種によって観点が違っているため様々な考えを交換できて、とても勉強になると思った。 ・よかったので続けるとよいと思う。 ・今回の実習は学ぶことが多く非常に有意義であったが、とても期間が短くきちんと理解しきれずに中途半端に終わったこともあった。 ・2日間強ではなじむだけで終わってしまい、もっと深いことを知りたかった。
時期(17)	<ul style="list-style-type: none"> ・4月初めは教科書販売や部活動の新入生歓迎関連の活動と重なるので辛い。 ・4月の仕事始めの時期であり、職員と十分に話をする事ができず残念だった。 ・新学期すぐに行くことに意義があるのかもしれないが、せめて一週間後であると少し余裕をもって学べると思う。
報告会(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は3グループでよいと思うが、資料は3グループ分とも全員に配布したほうがよいと思う。 ・発表までの準備期間が短かったので、もしも可能であればもう少し長くしてほしい。 ・発表会のグループ分けの際、施設の内容を均等に分けてほしいと思った。
実習施設(11)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習場所を事前にアンケートをとるなどして場所を決めさせてほしい。 ・遠隔地に行ってみたかった。 ・できれば近い所がよかった。 ・資金不足、人員不足の施設が多かったのが印象的だった。
指導(11)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループや個人に担当教員や指導者のフィードバックがあるととてもよいと思う。 ・教員側から実習先への連絡が行き渡っていない。
オリエンテーション(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと事前に施設についての情報が多く欲しかった。 ・オリエンテーションの時期を実習の直前にしてほしい。

肢に回答が分散していた。このことから、全体として保健医療総論Ⅱに対する学生の評価には学科間の相異はあまりなかったものと考えられる。

実習では対象者が生活、もしくは療養している場で個々の学生が見学、ないし直接的に対象者およびさまざまな職種の方々と関わる。学習は個人と環境の分かちがたい状況の中で成立すると考える状況論的アプローチの立場では、学習が成立するのは社会・文化的実践への正統的周辺参加によると考えられている。正統的とは実践活動が行われている場に正規のメンバーとして参加すること、周辺参加は最終的な産物に対してはごく限られた責任しか負わないという独自の関与のあり方を指している。学習者は実践活動が行われている場（共同体）のメンバーと相互交渉を行いながら観察と実践を繰り返し、次第に知識や技能を獲得していく。一方の既存のメンバーもまた学習者であることからメンバーの変容に伴い、共同体自身も変わっていく⁸⁾。

今回の調査で学生が積極的に実習に臨めたか、スタッフとの人間関係は満足であったか、実習期間を通して学んだ内容はどうかであったかという質問に対し、3学科いずれの学生も「良い」「やや良い」と回答した学生の割合が高かった。実際に体験した生活動作の介助等がうまくできたかという質問に対しては「良い」と回答した学生より、「やや良い」と回答した学生の割合が高くなっていった。実習施設により実際に体験した内容には違いが生じるが、表7の自由記載にあるように、生活動作の介助を行っていても知識のないことに由来する不安や戸惑いを感じながらの体験であったことが推察される。しかし、実習への積極性やスタッフとの人間関係、学んだことへの学生の評価が肯定的であったことは、それぞれの実習施設で学生の正統的周辺参加が保証されていたととらえることができる。

2年次初期に開講している保健医療総論Ⅱでは、その後の学習への動機づけを高める機会となることが重要である。生活援助技術の面に関しては学習進度との関連を考慮すると、保健医療総論Ⅱの終了後に学習する内容であったり、もしくは学科によってはほとんど学習しない内容であったりという状況がある。実習では自分の学習した技術を実践しその過程を振り返るといっても重要な意味を持つが、保健医療総論Ⅱの場合はその前の段階、すなわち対象者との関わり、対象者と保健医療福祉専門職者との関わりを通して人への理解を深めることが重要であると考えている。談話やレクリエーション、食事や更衣の介助といったさまざまな関わりを実際に体験できることそのものに、実習としての重要な意義がある。また、生活援助技術についての知識や技術がないから何もできないというのではなく、知識や技術の必要性を実感することで、その後の学習の意義を見出しながら進めていくことができるとよいと考える。

生活動作の介助に関して、教員はあらかじめ実習指導者との連絡、調整を確実に行うとともに、学生へのオリエン

テーションで施設の実情に応じた内容を伝えて学生の準備状態を把握しておくことが重要となる。施設の利用者の方、入所者の方の安全を確保することの重要性、さまざまな場面の見学をさせていただくことそのものの意義を理解した上で、学生が実習に参加できるようにする役割が教員にある。

学年が進むにつれて看護、理学療法、作業療法それぞれの専門性の学習が強化されていくことになるが、保健医療総論Ⅱでは保健医療福祉という視点を共通基盤にもつことが重要である。対象者を中心とした保健医療福祉専門職者の実践活動の場に学生が関与することによって、学生自身は自分の専門とする分野と他の分野との共通性と相異性を考える機会をもち、そのことを通して自らの専門性への理解を深めていくきっかけとすることが期待される。3学科混成によるグループ編成の実習について尋ねた質問では、半数以上の学生が「良い」と回答していた。専門性への理解が深まったかどうかは今回の調査結果からは不明であるが、少なくとも3学科混成による実習の意義を学生なりに実感できているものと考えられる。

「チーム医療」は医療の「専門化」や「合理化」の進展に寄与することが期待されているが、一方で「専門化」による弊害も指摘されている。たとえば一人の患者が抱える問題が細分化され、患者の全体性が見えなくなる場合がある。「専門化」によって生じたマイナス部分を補うことを可能にする「チーム医療」なら複眼的に患者の全体性を見ることができるとい⁹⁾。また、「チーム医療」を実践していくこととは、異なる原理に立脚する「知識」を持つもの同士の「討議」によりそれぞれの見方の差異が発見され、それを埋めていこうとすること、そして体系的なコミュニケーション媒体で伝達される「知識」だけでなく、インフォーマルに伝達される「情報」にも注意を向けることによって最適な医療を見つけていく営為と考えられている¹⁰⁾。2年次初期の学習進度を考慮すると、患者の全体性を見ることは不十分にならざるを得ない。しかし少数ではあるが、「3学科混成によりさまざまな観点から考えが交換できた」という意見は、同じ医療の分野であってもその中の専門性が異なることでそれぞれの見方の差異に気づく機会になったものと考えられる。

報告会準備および報告会に関して、グループ討議への参加や資料作成時の協力といった個々の学生の参加状況を尋ねる質問では「良い」と回答した学生が約半数であったが、報告会への参加について尋ねた質問では3学科とも「良い」「やや良い」「普通」に回答が分かれていた。準備期間や1グループあたりの担当時間等、運営に関わる質問に対する回答においても同様に「良い」「やや良い」「普通」に回答が分かれていた。報告会に関して「普通」以上と回答した割合が高かったことから、学習目標のうちの「チームの主体の一員として学ぶ」点については概ね達成できているものと思われる。

保健医療総論Ⅱ全体で得た内容について尋ねた質問では、「良い」と「やや良い」と回答した学生を合わせると3学科いずれも80%以上であった。記名式の調査票による結果であることを考慮しても、保健医療総論Ⅱは多くの学生から肯定的な評価を得ていることが示唆された。

自由記載欄に実習施設を学生自身が決めたいとの希望が記載されていた。保健医療総論Ⅱの開講に向けて次のような準備を行っている。前年度の10月に履修予定学生数の確認、実習施設への協力依頼の手続きの開始、11月から12月にかけて実習施設と実習担当教員を決定する。1月に各実習担当教員と実習施設の連絡・調整と学生配置を決定し、2月には学習要項や運営要項等の資料を実習施設へ送付、学生への全体オリエンテーションの実施、3月から4月にはグループへのオリエンテーションの実施というスケジュールである。実習施設が確定してから学生配置の決定まで時間的な余裕がないことから、現時点では学生の希望をとっていない。各年度で実習施設の協力を依頼することになるので、学生の希望を取り入れて学生配置を決定するというのは時間的な理由から困難であることは今後も続くのではないと思われる。

以上より、今回調査した対象において、教員のオリエンテーション、実習、全体に関して尋ねた各質問に対する回答には3学科間の相異はほとんどなく、「良い」「やや良い」と肯定的な回答をした学生の割合が高い結果であった。また3学科とも報告会への参加について尋ねた質問では「普通」以上と回答した割合が高かった。これらのことから保健医療総論Ⅱに関して学生の評価は概ね良好であった。今後に向けて実習施設との連携、教員のオリエンテーション、報告会の運営を検討する必要があることが明らかとなった。今後は実習担当教員および実習指導者の評価を検討することが課題である。

謝 辞

保健医療総論Ⅱの実習にご協力いただきました実習施設の利用者（児）、入所者（児）の方々、および施設長・実習指導者の方々に心より深謝いたします。また、これまで保健医療総論Ⅱの運営に携わっていただきました教職員ならびに研究補助員の皆様、調査にご協力下さいました学生の皆様に心から感謝いたします。

参考文献

- 1) 櫻井晃洋, 木村貞治, 福嶋義光他: グループワークを中心とした医学科・保健学科合同新入生ゼミナールの実施. 医学教育38: 23-28, 2007
- 2) 小田心水, 大塚真理子, 朝日雅也他: 課題レポートの分析による「フィールド体験学習」の学び. 埼玉県立大学紀要4: 27-34, 2002

- 3) 木下里美, 大塚真理子, 朝日雅也他: 保健医療福祉学部1年次のフィールド体験学習の効果と実習施設との関連. 埼玉県立大学紀要4: 35-42, 2002
- 4) 高屋敷明由美, 藤井博之, 大嶋伸雄: 地域における医療関係職種学生合同実習から参加者が得たものは?—卒前医学教育における職種間連携の教育の意義—. 医学教育37: 359-365, 2006
- 5) 亀井智子, 辻彼南雄, 橋本泰子他: 高齢者への学際的チームアプローチの向上を目的とした保健医療福祉専門職学生合同老年学教育プログラムの効果. 聖路加看護大学紀要31: 36-45, 2005
- 6) 鷹野和美: チーム医療論. 東京. 医歯薬出版, 2002, p93-106
- 7) 笠井潔, 橋本伸也, 山田恵子他: グループ学習の新しい方法—保健医療総論Ⅲ—. 札幌医科大学保健医療学部紀要6: 103-109, 2003
- 8) 羽生義正: パースペクティブ学習心理学. 京都. 北大路書房, 1999, p204-206
- 9) 細田満和子: 「チーム医療」の理念と現実. 東京. 日本看護協会出版会, 2003, p27-28
- 10) 前掲書9) p79-80